

## 令和7年度 上田市立清明小学校 自己評価シート

学校教育目標			めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価						
「清く明るく 豊かな心で 進んで学ぶ 子どもの育成」  ・心も体もたくましい子ども ・自分や友だちを大切に できる子ども ・自ら学ぶ子ども			①自主：豊かな心かわりやさまざまな体験を通して、自分で気づき、よく考えて 自らたくましく行動できる子ども ②豊かさ：お互いに認め合う中で自分に自信を持ち、友とのかかわり合いを大切 にして、共に学習や生活を楽しむことができる子ども ③学び：自ら見つけた課題を、友と考えをつなぎからめ合いながら追究し、学び の楽しさや高まりを実感できる子ども		学びにおいては、体験を通して、子どもたちが問いを見だし、表現したり考えを繋ぎ深めていく授業に重点をおいて取り組んできた。行事や体験的な学習、授業研究会を通して、子どもたち一人一人の変容や成長を大事に見取っていくことで、問題の提示や発問の工夫がより一層大切であり、かつ、日常の子どもたちとの関わり方が互いに学び合う環境作りの土台となることを学んできた一年間であった。目の前の子どもたちが、目を輝かせる瞬間を求めて、子どもたちと一緒に成長していく職員集団を目指したい。また、あいさつを交わすことや相手の話に耳を傾けることが、日々の活動や縦割り班での活動の様子から、重要な関わりの土台となると言える。生活を共にする集団の中で、関係を築きながら、もっと伝えたい、もっと考え合いたいと前のめりになる人間関係づくり、教室環境づくり、学校づくりに取り組んでいきたい。						
			今年度の重点目標		成果と課題						
			1	○体験を通した学習から、子どもたちが問いを見だし、自らの考えを表現したり、友と考えを繋ぎ、絡め合ったりするような授業を仕組んだか。【学びを拓く】	・学年で実施する行事など、体験学習を通じて子どもたちが試行錯誤し、自分たちで成し遂げたという自信と達成感を得た。また、多くの授業で友と考えを繋ぎ絡め合う授業が仕組まれ、効果が見られてきている。 ●「なぜ?」「どうして?」といった子どもたちが問いを見出す場面を、もっと意図的に仕組んでいくことに課題。	A	B	C	D	改善策・向上策 ・生活科や総合的な学習の時間だけでなく、国語、算数でも子どもたちの「なぜ?」「どうして?」という問いが生まれてくるような教材との出会い方を工夫する。 ・問題に対して、グループやペアなど、誰かとかかわりたくなる場面や問題を仕組み、「友と考えを繋ぐ」点を強化する。 ・体験する活動を増やし、教科書を超えた学びを提供する。	
			2	○日常のあらゆる場面で、あいさつを大事にした指導ができたか。また、自身が示範となるあいさつができたか。 ○目・耳・心を使って話を聞き合い、自分の意見を発信できる場を仕組むことができたか。【他者意識の育成】	・校内でのすれ違い時のあいさつや会釈ができる児童が増え、学年を超えた交流の中でもできるようにするなど、あいさつの大切さを実感する姿がある。コミュニケーションスキルを獲得する場を意図的に設け、自ら話す場面が増えた。 ●話に反応したり、自分の意見に絡めたりすることに課題が見られる。	A	B	C	D	改善策・向上策 ・話し合える場をもち、発言したくなる問いを仕組むことで、自分の意見を発信する機会を増やす。受け取る側の態度や、自分の意見の伝え方・聞き方のスキルなど、双方向のコミュニケーションと一緒に考えていく。 ・学級経営や授業の中で、クラスみんなで話し合って解決する習慣を身に付けられる場をもつ。	
			対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
重点目標	自主	学び 【心の道】	学 び	【学びを拓く】 ・問いを見だし、自らの考えを持つ ・進んで考えを繋ぎ、絡め合う ・見て、触れて、感じる体験	○体験を通した学習から、子どもたちが問いを見だし、自らの考えを表現したり、友と考えを繋ぎ、絡め合ったりするような授業を仕組んだか。	上記「今年度の重点」1にて評価					上記「今年度の重点」1にて評価
				【学びの定着】 ・感動のある学び ・達成感を分かち合う学び ・自分を高める家庭学習や自主学習	○子どもたちが感動したり、達成感を分かち合える学びを仕組むことができたか。 ○子どもたちが自らを高める家庭学習や自主学習に向かえるよう取り組んだか。						
				【神樹の時間と学びの連携】 ・「ひと・もの・こと」とつながり、子どもたちの問いから始まる学び ・地域素材に目を向け地域と連携した探究的・協働的な学び ・他教科との連携	○子どもたちが地域や「ひと・もの・こと」とつながり、自ら問いを持って探究的・協働的な学びとなるよう授業を仕組むことができたか。						
		豊かさ 【神樹の心】	心	【他者意識の育成】 ・気持ち伝わるあいさつ ・「いつでも」「どこでも」「だれにでも」 ・伝える力の向上	○日常のあらゆる場面で、あいさつを大事にした指導ができたか。また、自身が示範となるあいさつができたか。 ○目・耳・心を使って話を聞き合い、自分の意見を発信できる場を仕組むことができたか。	上記「今年度の重点」2にて評価					上記「今年度の重点」2にて評価
				【特別活動の充実】 ～多様な他者と協力し、 よりよく生きる力を育む～ ・互恵性のある交流活動 ・集団としての合意形成 ・子ども同士のつながりを強くする、子ども主体の活動	○学級の係、児童会、縦割り班やペア学級など、他者と関わり合う中で、互いを慮ったり、相手の意見を大事にしながら、自身の考えを伝えたりすることを通して、交流したり、合意形成したりし、子どもたちが主体となって創り出す場を大事にした活動を仕組むことができたか。						

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった